

# 情熱 大崎

People with the passion of Osaki

**ア** マチユア女子ボクシングのフライ級で、最強の名を欲しいままにしている藤岡奈穂子さんは、日本や世界で活躍する女子アマチュアボクサーです。

藤岡さんがボクシングを始めたのは、平成十一年、二十四歳のときです。中学・高校・社会人とソフトボールを続けてきましたが、個人競技で自分の力を試してみたくなり、たまたま広告で目にした古川リバーサイドボクシングジムの門を叩きました。

入門後、一年間練習を積んで迎えた最初の試合。とても緊張したそつですが、見事ノックアウト勝ちを収めました。「リングの上でノックアウトしたときの気持ちよさが、今まで感じたことのないものでした」と、この勝利でさらにボクシングに夢中になります。

その後は、国内大会で連戦連勝。平成十五年のアジア大会で銅メダル、平成十六年の世界選手権では銀メダルを獲得しました。現在も、国内無敗記録を更新中です。

古川リバーサイドボクシングジム代表の清野さんは、「男子にひけをとらないパンチ力がある。女子ボクサーで藤岡ほどノックアウトできる人はいないよ」と、まな弟子の強さに太鼓判を押します。

藤岡さんは、「両親やジムの仲間、友人に支えられ、よい結果を残してくれました。次は、国際大会で優勝して、お世話になった人たちへ恩返しをしたいですね」と、熱い気持ちを語ってくれました。

飽くなき向上心をもち、厳しい練習をこなして勝利を目指す最強女子ボクサーの勢いは、とてつもないです。



## 向かう所敵なし！ 目指すは国際大会優勝

女子アマチュアボクサー  
藤岡奈穂子さん(古川地域)



▲ジムでミットやサンドバッグにパンチを打ち込み練習する藤岡さん。練習の合間、「女子ボクサーの仲間を増やしたいですね。興味のある人は、一度古川リバーサイドボクシングジムへ見学に来てください」と、話してくれました。

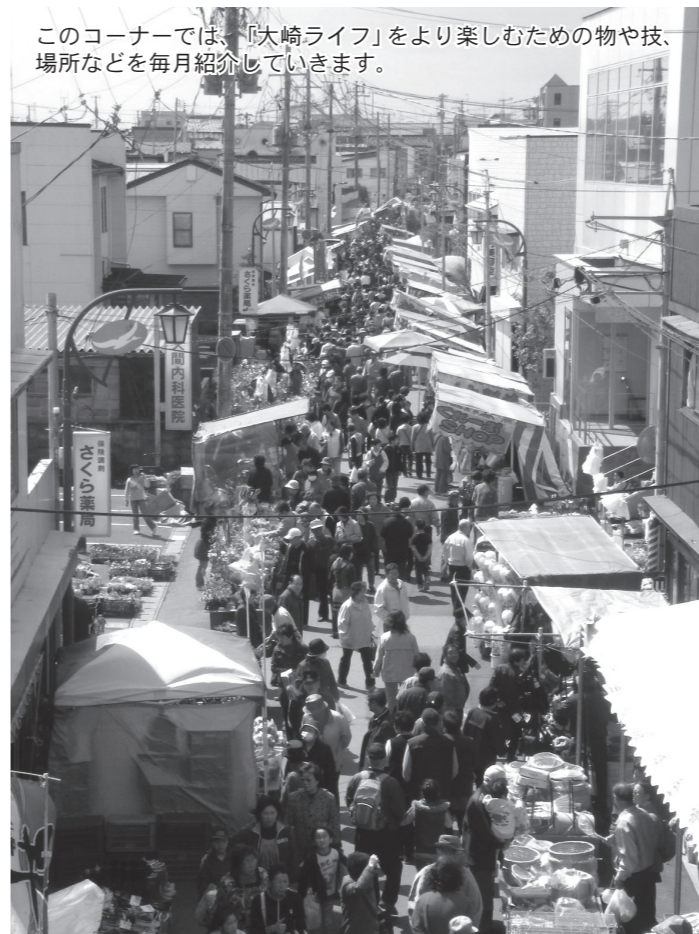
古川リバーサイドボクシングジム 代表 清野  
☎ 090-8423-8536

Very interesting in Osaki

# 津興々味

鹿島台地域発

## 百年を迎える 鹿島台の互市



このコーナーでは、「大崎ライフ」をより楽しむための物や技、場所などを毎月紹介していきます。

今回の互市は、通常の市のほか、「100年祭」として期間中さまざまなイベントを開催します。

日時 4月10日(金)～12日(日) 9時～17時

※天候により変更になる場合があります。

互市会場 鹿島台総合支所裏～JR鹿島台駅間「昭和通り」

※駐車場は鎌田記念ホールをご利用ください。会場までシャトルバスが運行します。

イベント会場 互市会場内やなぎや電器さん隣特設会場

内容 楽天ゴールデンエンジェルズ出演(10日/11時～、14時～)、「ヨシヒデ」ライブ(10日/12時15分～、15時～ 11日/11時30分～、14時30分～)、「カズシク」ライブ(12日/11時30分～、14時30分～)、100周年祝い餅つき(12日/12時30分～)など  
※イベント内容・時間は変更になる場合があります。

問 鹿島台互市運営委員会(鹿島台総合支所産業建設課内) ☎ 56-5520



**鹿島台互市の起こりは、明治四十二年、鹿島台村にある十四の神社を鹿島台神社に合祀し、春と秋の祭りに合わせて村を活性化しようとしたのが始まりです。今年四月、百年を迎える鹿島台互市の誕生には、「わらし村長」の愛称で親しまれた、鎌田三之助村長と深い関わりがあります。**

鎌田三之助は、大雨の度に氾濫し被害をもたらす品井沼の干拓と村の財政を立て直しの期待を一身に受け、明治四十二年、鹿島台村長に就任しました。

鎌田村長は、理想の村づくりのために、市場の開設、産業組合の設立など数々の改革を断行しました。その改革のひとつとして始まった互市は、自家の生産物を販売することで収入を増やしたり、質の良い作物の種や苗木、農具などを流通することで、生産を拡大させることが狙いでした。

当初は、神社の参道から鹿島台駅

昭和のはじめの互市を語っていただきました



大崎商工会長 武藤 利孝さん

指折り数えて待っていたお祭り

私が子どものころは、互市の日には学校が休みになり、町にサーカスが来て空中ブランコや猛獣ショーなどを見れるので、まだかまだかと指折り数えて互市を待っていました。

物を売るときはやり取りも楽しかったですね。商品に値段はついていますが、売り手とお客さんの駆け引きで、どんどん安くなるんですよ。

また、ガス灯を灯して、うどん・そば屋などが夜遅くまでにぎわっていたのを覚えています。

見せ物は少なくなった気がしますが、今も昔も互市の盛況ぶりは変わりませんね。

までの沿道が互市の会場だったの

で、神社に参拝する人が多かったことや鉄道などの交通の利便がよいため、鹿島台の互市は活気を呼びました。露店を張る商人は、鹿島台はもちろん県内各地から訪れ、大阪からもやってきたといえます。

娯楽の少ない時代、家族や親せきと共に互市で買い物や見せ物を楽しむことは、何よりの喜びでもありました。

そして百年の間、戦時中も休むことなく開催され、東北随一の規模で現在に受け継がれています。

今年百年を記念して、互市の会場となる昭和通りに鹿島台神社の神輿を設置したり、出店全店舗で百年記念セールを開催します。また、ステイジイベントなどもあり、買物をしながら楽しいショーを見ることができます。

初めての人も行ったことがある人も、節目を迎えた伝統の市を楽しんでみませんか。